

学びの定着に効果的な振り返り活動の実践

—振り返りシートの作成, 実践を通して—

M16EP011

水上 拓紀

1 はじめに

平成 29 年 3 月に公示された中学校学習指導要領第一章総則第 3(4)には、「生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。」と書かれている。また、小学校の指導要領においても、同様の記述があることから、義務教育の 9 年間で、各教科において、この見通し・振り返り活動を、計画的に取り入れて、指導していく必要があることは言うまでもない。

昨年度の研究では、学習シートを作成し、数学的な考え方を身につけるための授業研究を行ってきた。本年度の研究では、数学的な考え方のみでなく、授業における学び全般を定着できるようにしたいと考えた。その手立てとして、数学授業における「振り返り活動」に着目し、実践研究を行ってきた。

小池ら (2015) によると、「学習を振り返る活動には、学びの主体である生徒にとっては、自らの学びを内省し、次の学習に向けて自らの状況をコントロールするメタ認知的機能があり、(以下略)」と述べている。生徒が振り返りを書くことで、生徒は自分と向き合い、自分の変容を知る。そのことで、主体的に新たな発見を再び自分の中に落とし込むことが期待できるのではないかと考えた。

重松・吉岡 (2012) は「ノートなどに感想を書かせることを促すものが現れ、より生徒の反省的な記述には注目されてきているが、メタ認知の育成の視点から論じたものが少ない。」としている。このことから、反省的な記述として何を書かせるかを考えることが必要であることがわかる。生徒自身が授業で何を学んだかを客観的に見ることができるよう

内容を書く手立てが必要である。

藤原ら (不詳) は、振り返りを「結果の振り返り」と「過程の振り返り」に分けて考えている。後者について、「数学科で重視したい過程の振り返りとは『方法の振り返り』であり、問題解決の過程で有効に働いた方法を改めて意識化することである。」としている。どうやってその問題を解いたのか、自分がどのように考えたのかを振り返り、意識化させることが大切であると考えます。

これらを踏まえて考えると、授業でわかったことや有効だと思った考え方を振り返りとして書くことが必要であることがわかる。振り返りとして再度記述することで、その思考は自分の中で自覚化され、学習したことが自分の中に成立する。もしわからなくても、どこがわからないかが自覚でき、間違えも把握できる。この思考の動きを振り返り活動によって自覚化 (メタ認知) することが、授業における学びを定着させることに効果的ではないかと考え、本研究に取り組んできた。

2 研究の方法

(1) 実習校と実習方法

実 習 校 : 山梨県内中学校

実習期間 : 5 月 ~ 1 2 月 (週 1 回)

実習方法 : 授業実践

(2) 本研究に関わるデータの収集方法

文献調査, 授業実践 (ノート・シート調査), アンケート調査

(3) 研究実践

対 象 : 第 1 学年 93 名

期 間 : 実習期間に同じ

主な単元 : 「方程式」「比例と反比例」

(使用教科書 東京書籍「新しい数学 1」)

3 研究の結果

(1) 授業用ノートにおける振り返りの取組と考察

1学期の間、授業の振り返りを授業用ノートに書かせる活動を行ってきた。授業の終わりに3～5分程度の時間を確保し、生徒が振り返りとして、本時の授業の中で「大切だ」と思ったことを書く取組である。

「大切だ」と思ったことを書かせる作業について、堀（2013）は著書の中で、学習履歴と題して、「学習履歴とは、毎時間学習後に学習者が『授業の一番大切なこと』を書く欄である。（中略）単なる感想や印象、思いなどではない。この意図は、まず授業を受けた学習者の頭の中に何が残されているのかを知るためである」と述べている。授業で一番大切だと思ったことを自身の言葉でまとめとして書かせることで、本時の学びを自己認知し、学習内容を定着させることが目的である。

しかしながら、この振り返り活動を通じて生徒に授業の学びが定着しているかを判断することはできなかった。

原因は、「振り返りの記述をこまめにチェックできない」ことである。授業用ノートに記述させたことで、その日のうちにノートを回収・チェック・返却しなくてはならなかった。しかしながら、日常業務の中で、その作業の時間を捻出することは困難であった。また、その原因から、振り返りが書いていない生徒や、感想になってしまう生徒にも対応が遅れてしまった。あるクラスの正負の数の除法の授業では、30人中6人が「記述なし」、2人が「除法をがんばる。」「わからないところがあつたけどたのしかったです。」といった感想になっていた。

上記の問題点を改善し、学びが定着できるような振り返り活動を行うにはどうしたら良いか考える必要があつた。

(2) 第1回数学アンケートの実施と考察

生徒の振り返り活動の実態を把握するために、1学期の終盤にアンケートを行った。この時期に行った理由は、結果を分析して夏休み期間に改善するためである。

まず、「振り返りを書いているか。」という問いに対しては、98%の生徒（N=87）が書いていると回答した。

その中で「授業後に振り返りを見たことがあるか。」という問いに対しては、76%が見たことがあると回答した。その生徒たちに「振り返りをいつ見るのか。」と聞いたところ、テスト前や家に帰って家庭学習ノートを行う際と回答した生徒が多かった。反対に、授業後に振り返りを見ないと回答した24%の生徒は「ノートを見ないから。」という理由が多く、「時間がない。」や「教科書やワークをやるから。」といった意見も見られた。

振り返りを見ている生徒は、テスト前や家庭学習ノートの際に、復習として振り返りを見ている。一方で、振り返りを見ない生徒は、振り返りの意義を実感できていない。したがって、いかに振り返りを書くことに意義を感じさせられるかを考える必要がある。

(3) 振り返りシートの作成

(1)、(2)で出た課題をふまえ、学びを定着させるための手立てとして、振り返りシート（以下、シートとする。）を作成した。項目は以下の図1、実際に作成したものは図2の通りである。

【シートの項目（左から）】

- ・ 授業の回数
- ・ 日付、プリント No
- ・ 大切だと思ったこと
- ・ 本日の IQ
- ・ IQ のポイント、キーワード
- ・ わかり度合い

図1 振り返りシートの項目

組 番 氏 名				
回	日付 プリNo	大切に思ったこと	本日のIQ (重要な問題、印象に残った問題)	IQのポイント、キーワード わかり度合い

図2 実際の振り返りシート

【項目】「本日のIQ」とは

(1)において、授業用ノート进行回収し、生徒の振り返りを見ていた中で、筆者の期待する振り返りが見えてきた。それは「問題を書くことによる振り返り」である。

振り返りを書かせる際に、「大切に思ったことを書きなさい」と指示しても、「△△がわかった。」や「復習をしっかりとる。」といった感想のような記述が見られた。しかしながら、その内容は筆者の望むものではない。そこで、図3のような振り返りに着目した。

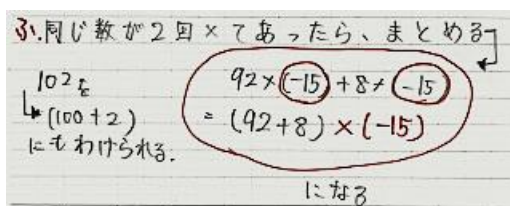


図3 問題を書くことによる振り返り例

図3の振り返り例を参考にして、授業で扱った「重要な (Important)、または印象に残った (Impressive) 問題 (Question)」(以下IQ) を授業の最後に書かせることを考えた。

IQを考えることで、それぞれの生徒が、授業で「大切に」思ったことが“問題”となって具体化され、よりその授業の学びを深く考えさせる(深化させる)機会となるのではないかと考えた。

IQの欄には、解答を書かずに問題のみを記述する。そしてIQを単元末やテスト前に再度解くことで、自身の学びがより確認しやすくなり、定着につながることを期待した。

【項目】「IQのポイント、キーワード」とは

IQを書く欄のとなりには、後日自身がIQを解くことをイメージしてポイントやキー

ードを書いておく。これは授業で学んだポイントでも良いし、自分がその問題でつまづいたことのキーワード(約分、符号ミスなど)でも良い。

単元末やテスト前に再度IQを解く際のヒントを考えることで、授業で大切だと思ったことを第三者として考える(メタ認知する)ようになる。結果として、より多角的に授業内容が捉えられ、授業の学びが定着することを期待した。

【項目】「わかり度合い」とは

授業の内容をどれくらい理解できたかを、生徒自身が4段階で評価する(4が最高)。これを行うことで、生徒自身が単元の最後やテスト前に重点的に振り返るべき内容を一目でわかるようにすることを期待した。

また、指導者がそれを見ることで、授業で発見することができなかった生徒のつまづきの発見や解決につなげることも期待できる。

(4) 振り返りシートの取組と考察

シートは、授業終了前に3~5分程度の記入時間を設け、授業が終わったら回収して、定期的に授業者が振り返りの内容を確認する。次の授業の最初で生徒に返却する。

【生徒Aの取組例】

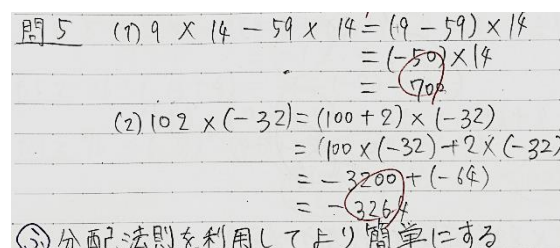
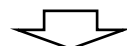


図4 生徒Aの授業用ノートによる振り返り



(1)がある式は分配法則をして()をなくす。 小数は先に整数にする	$0.12x - 0.28 = 0.8$	$0.12 \times 100 = 12$ $0.8 \times 100 = 80$ ↑倍	4
係数に分数をいれる方程式では 分母の公倍数を両辺にかければ よい	$\frac{1}{3}x - 4 = \frac{1}{5}x$	3と5の公倍数 15を両辺にかけ	4

図5 生徒Aのシートによる振り返り

生徒 A は比較的理解力が高く、授業用ノートによる振り返り（図 4）を行っているときにも「大切だ」と思ったこととして、授業のポイントとなる内容が書けていた。これがシート（図 5）では、その「大切だ」と思ったことに関する IQ とそのヒントが付け加えられる。こうすることで、「大切だ」と思ったことがより具体的になっていることがわかる。

〔生徒 B の取組例〕

図 6 生徒 B の授業用ノートによる振り返り

移項をつかう。	$5x = 6 + 4x$	符号を変えて他方の辺に移す	2
数を移動したら符号を変える。	$9 - x = 2 + 6x$	x を含む項は左辺、数だけの項は右辺に移す	1

図 7 生徒 B のシートによる振り返り

生徒 B は数学に対してやや苦手意識を感じている生徒である。授業用ノートによる振り返り（図 6）の際には、「気をつけたい」「忘れずにしたい」など、感想のような振り返りが多かったが、シート（図 7）では、「移項」といった数学的な言葉が使われるようになった。IQ を書いたことで、ポイントや大切だと思ったことが焦点化されたと考えられる。

全体として、生徒 B のような振り返りが 6 割程度の生徒に見られた。それまでは感想だったが、IQ に関連する“移項”のような数学的用語を使えるようになった生徒が増えた。

(5) 振り返りノートの取組と考察

学びの定着に向けた取組として、シートを活用して、授業用ノートとは別のノートに、「振り返りノート」（以下、ノート）と題し、IQ を解き直す取組を行った。ノートの作り方は以下の図 8 の通りである。

- ①新しい見開きページを使用し、単元名と組・番号・氏名を書く。
- ②振り返りシートの IQ の問題文や式を写す。
※「P122 問 3」のような省略した書き方は不可。
- ③わかり度合いを赤い☆で書く。
- ④振り返りシートにある「IQ のポイント、キーワード」を参考に IQ を解く。

図 8 振り返りノートの作り方

今回の研究では各単元のシートを、学期の中間と学期末に行われるテストの前に返却し、ノートを作成させた。ノートの作成時間として、授業 1 時間を設定し、作成手順の説明と支援の必要な生徒の指導を行った。

図 9 の生徒 A（前出）の例は、図 8 のノートの作り方に忠実に作成した例である。「授業の回数」をノートでは「問題番号」とし、「わかり度合い」を問題番号の下に「赤い星マーク」で書いている。この星マークを書く作業には、その授業を受けたときの理解度を再認識し、やる気を喚起させるねらいがある。

また、ノートの作り方②に示したように、授業内では時間不足、スペース不足によって書けなかった教科書 P93 の IQ も、ノートに解き直す際には、その問題文を写している。

8	10/5 No.6	1.求める数量を x で表す 2.数量の間の関係を x で表す式 3.式を解く	P.93	数量の間の関係を かけかけ式で つくる	4
---	--------------	---	------	---------------------------	---

(8) 実行委員で話し合い、17クラスの発表時間を15分間に 決めました。9時ちょうどに17クラス目がはじまり、9時28日の 発表が、11時55分に終わるようにしたいと考えています。 交代の時間を早くするとき、交代の時間は何分間た すればよいでしょうか。 $9 \times 15 + 8 \times x = 175$ $135 + 8x = 175$ $8x = 175 - 135$ $8x = 40$ $x = 5$ A. 5分間	
---	--

図 9 生徒 A の取組例

図 10 の生徒 B（前出）の例は、数学に苦手意識をもつ生徒に多かった例である。星 1 つの問題が多く、ノートに行う際にも自力解決できなかった様子が見て取れる。

しかし、その IQ で大切だと思った「移項」の部分を赤いペンで書いてある。このことから生徒 B は、学びの機会を授業とノートで計 2 回確実に得たことになり、学びの定着に近

づいたと言える。

図 10 生徒 B の取組例

他にも、筆者の期待以上の取組として、IQ を解く前や解いた後に、問題文だけでなくシートのポイントを写したり、生徒 C (図 11) のように、わかり度合い (星マーク) を「前 (授業後)」と「後 (ノート作成後)」に分けて書いたりしているものもあった。ただ解き直すだけでなく、学びをより深く定着させようとする工夫が見て取れる。

図 11 生徒 C の取組例

全体考察として、実施した 2 回それぞれが 13 問ずつという問題数であったことで、やや生徒に負担がかかっているように感じた。しかし、授業 1 時間を費やしたこともあり、大半の生徒は上記例のように、ノートの作成を行うことができた。このことから、授業の学びが多少なりに定着したと考えられる。

また、ノート作成のときは「こんな (IQ の) ヒントではわからない」と書いた過去の自分を責めながらも、自分で書いた問題であるため、意欲的に取り組む生徒が多かったように感じる。

(6) 第 2 回数学アンケートの実施結果

生徒の振り返り活動の実態を把握するために、2 学期の終盤に 2 回目のアンケートを行った。(N=88) この時期にアンケートをとったのは、振り返りシートを実施したことによる成果と課題を把握するためである。

質問には「理由」として自由記述欄を設けた。以下の表にまとめたものは、それぞれの質問において肯定的な回答である。表の左側にあるラベルは、自由記述を観点別に分析したもので、() 内は人数を示している。表の右側は、ラベルごとの記述の具体例である。

都合上、表の通し番号、表題は省略する。

質問 1 : 授業用ノートに振り返りを書いていたときと比べて、シートの大切だと思ったことは書きやすくなったか。
1. 書きやすくなった / 2. どちらかという書きやすくなった / 3. どちらかという書きにくかった / 4. 書きにくかった

肯定的な回答 (1, 2 と答えた生徒) …91%

理由	具体例
振り返りシートの形式による効果 (25)	欄がないと適当にやるけど欄があるとしっかりやる。/書く量が決まっている中で何を書くか考えることで一番大切な内容が分かると思うから。
見やすさに関するもの (14)	ノートだと見にくくなるので、書きやすかった。/そっちの方がまとめやすいし振り返るときに見やすいから。
授業との連動によるもの (6)	プリントにポイントなどが書いてあったから。/大切なところに先生が「大切、こっち見て」などと言っているから。
意識が変化したもの (5)	ちゃんと話を聞くようになったから。/先生のこともとりいれるようになったから。
書く内容、書き方を理解したもの (5)	ポイントなどを知ったから。/以前は感想のようなものだったので、大切なことがわかりやすくなったから。
その他 (6)	シートにすることで時間が短くなり、大切が書きやすくなったから。

否定的な回答の具体例

ノートよりも書けるスペースが少なくなったから。/シートを出すのが面倒くさい。

質問 2 : シートに IQ を書き、そのポイントやキーワードを書くことはどうだったか。
1. 良かった / 2. どちらかという良かった / 3. どちらかという良くなかった / 4. 良くなかった

肯定的な回答 (1, 2 と答えた生徒) …94%

理由	具体例
授業をまとめるための補助 (19)	難しかった問題のポイントをかけて良い。/授業の内容がわかりやすくとめられたから。

思い出すための補助 (14)	よくわからないときもキーワードを見て思い出せるようになった。／テストの近いとき IQ とか見るとどこが間違えたか分かるから。
復習のための補助 (12)	自分ができなかったところや難しかったところを繰り返してきて復習することができた。／その後自分がまたできるかどうか確認できるから。
理解を深めるための補助 (11)	問題のキーワードを考えることで理解をきちんとできるから。／キーワードを書くことで解き方のコツがわかるから。
その他 (8)	次に意識できるようになるから。／わからないのがわかるから。

否定的な回答の具体例

大切だと思ったことと被ることが多い。／ポイントを書くのが難しい問題もある。／書いたらすぐ回収しちゃうからあんま見ない。でも自分でとっというてもなくす。

質問3：わかり度合いを書くことはどうだったか。

1. 良かった／2. どちらかという良かった／3. どちらかという良くなかった／4. 良くなかった

肯定的な回答 (1, 2 と答えた生徒) …90%

理由	具体例
理解の把握のため (28)	自分がどれだけわかっているか知れたから。／そのとき自分がどれだけわかっているか確認できるから。
復習のため (16)	もう一回復習しようという気持ちになった。／そのときにできなくてももう一回やって4にできるように使えるから。
つまずきの確認のため (8)	自分が分からないところを確認できるようになった。／自分の苦手なところがわかるから。
振り返りのため (5)	授業を一瞬だけでも振り返るようになったから。／その日ちゃんとわかったかを考えることができるから。
その他 (7)	わかり度合いが1だったら先生が対応してくれると思うから。／4段階まであるわかり度合いはとてもいい。

否定的な回答の具体例

それを書いても別にわかるわけじゃないから。／書いても書かなくても変わらない気がする。

質問4：テスト前にノートに IQ を解いたがどうだったか。(振り返りノート)

1. 良かった／2. 良くなかった

肯定的な回答 (1 と答えた生徒) …92%

理由	具体例
復習に活用 (17)	わからない問題を何回も復習できるから。／自分では大丈夫だと思っても、意外とわからないところがあったので、それを復習できるから。
振り返りに活用 (14)	振り返りができたから良かった。／やった問題なのに忘れたという問題とかを思い出すことができた。
理解の補助に活用 (12)	わからないところがわかるようになったから。／できない問題が1問でも解けたから。
テストに有効 (10)	テストにも似ている問題が出ていたから。／点数がアップした。
学習に活用 (7)	テストの範囲が最後に全部まとめられるから。／大切な問題が集まっているから。
その他 (9)	友だちと教え合えた。／自分が必要だと思ったところを効率よく解けるから。／自分じゃ復習はしないけど、IQ 問題だとどこを復習すれば良いとかがわかった。

否定的な回答の具体例

課題が増えた。／見開きを使うともったいない。／やる意味があるのかと思ったから。

質問5：振り返りを書くことについて、率直な意見、感想を書きなさい。

振り返りは 1. 必要だと思う／2. 必要ないと思う

肯定的な回答 (1 と答えた生徒) …93%

ラベル	具体例
振り返りとして (15)	授業で習ったことを思い出せる。／どこを振り返りすればいいかわからなくても参考になるから。
定着方法として (12)	解き直しをして理解することができるから。／点数が上がるから。授業を聞けるようになった。
テスト対策として (12)	テスト前に必要な公式や大切な用語を確認できるから。／何がわかって何がわからなかったかわかる。テストの苦手対策になる。
メタ認知として (9)	今日の勉強で何が大切で何がわかったのかを自分がわからないといけなから。／自分のわかりにくい問題の系統がわかるから。
復習として (9)	復習などに役立つ。／それを見て復習して自分のためになるから。
家庭学習への利用として (6)	今日の授業は何したかわかるし、家庭学習ノートも書きやすいから。／家に帰ってポイントを見て家庭学習ノートに書いて覚えやすくなるから。

(シート)のわかりやすさ (5)	その日のやったことが一目でわかったので必要だと思う。／単元の大切なところが繰り返しできるし、見やすくなるので良い。
その他 (8)	わからなかったらそのままになりやすいから。／次の授業に役立つ。

否定的な回答の具体例

家庭学習ノートに振り返りを書けば良いと思ったから。／教科書を見返すときに書いてあるから。／書いてもそれが完璧にわかるわけじゃないし、その分勉強した方が良い。

(7) 振り返りシートの成果と課題（アンケート結果をふまえて）

成果

多くの生徒が、「振り返りは必要だ」と思っている通り、振り返りは書かないよりも書いた方が良いことは明白であった。しかしながら、振り返りをどうやって（学びの定着に向けた）具体的な内容にするかが研究当初からの課題であった。

その主たる手立てとして、今回作成したシートではIQを設定した。自分でIQを作成し、そのポイントやキーワードを考えることで、学びを客観視する、つまりメタ認知的な視点を身につけられたことはアンケートからも読み取れた。それによって、理解の深まりが行われたと感じている。

また、授業後に「振り返りを書きますか。」という発言が増えたことに加えて、「今日はIQが多いので、1つじゃなくても良いですか。」といった前向きな発言も出てくるなど、生徒の振り返りに対する意識・意欲の向上も見られた。

筆者側の成果としては、シートのわかり度合いの記入が予想以上に手応えを感じた。ノート作成時に、手が止まっている生徒がいても、シートのわかり度合いを見ることで、つまづきを把握することが容易になった。

加えて、生徒が書いたヒントを用いて、「ここに良いヒントが書いてあるね。これを参考

にすると、・・・」などといった指導も行った。個に応じた指導とともに、その生徒の振り返りに対する自尊感情を高めることができたと感じた。

課題

【授業づくりの視点から】

膨大な教科書内容の指導に加え、生徒がシートを記入する時間を捻出することは決して容易なことでない。今年度もかなり意識をしたが、それでもアンケートに「もっと振り返りの時間が欲しい」といった要望が挙げられていた。解決策として、昨年度の研究で作成した学習シートはその一助となっているが、そのみに頼るのではなく、今まで以上にタイムマネジメント、カリキュラムマネジメントが必要になる。年間を通じた指導計画の作成と、教科書内容の軽重を見極めた授業づくりが重要である。

【生徒への対応の視点から】

振り返りシートの実践を通じて、課題となったことは、「コメントが欲しい生徒」と「わかり度合いの低い生徒」への対応がある。

前者について、筆者はこれまで、振り返りシートには多忙化を防ぐため、コメントを書くことを避けてきた。しかしながら、コメントを求める意欲的な生徒や、謝った理解をしている生徒へは、コメントをするべきであると感じた。そこで、対応策としてコメントを求める際のルールを設定することとした。そのルールを「コメントが欲しいとシートに書いてある場合」と、「シートの内容にミスがある場合」とした。このルールを設定することで、指導者の負担が緩和された。

また、後者の「わかり度合いの低い生徒」への対応は研究の大きな課題である。わかり度合いの低さは、生徒からのSOSであり、つまづきの早期発見、適切な対応につながる。実際、アンケートにも、「わかり度合いが1だったら先生が対応してくれると思うから。」や

「シートにわかり度合いで1や2が書いてあったら先生が次の授業でそこを詳しく説明するとかした方が良い。」とあった。早期適切で、具体的な指導が求められている。

解決策は未だ模索中である。上記の通り、授業内での対応ができればそれがベストだが、そうでなくても、把握したつまづきを克服できるような小課題（小テストやプリント）も有効ではないかと考える。

4 おわりに（シートの意義と可能性）

今年度は振り返り活動に着目し、研究を行ってきた。その中で、振り返りに限らず大切なことは“確かな意義の実感”だと感じた。

とかく今の生徒は否定的なニュアンスで「何のために～するのか」という言葉を発する。それは、自分のやっていることがその先どう役立つのかが明確に見えない、つまり、やる意義がわからないからである。今回の研究では、IQを書く前に「単元末、テスト前に振り返りとして解くため」と説明した。結果としてテスト前のみになってしまったが、生徒にとってはテスト対策となり、振り返る意義を感じられていた。

また、シートによって、学びを定着させられたかどうかは残念ながら検証できなかったが、「学び方の定着」には大きく有効であると感じた。それまでは漠然とノートに書いていた「大切だ」と思ったことが、IQやわかり度合いといった項目を提示してあげることで、「大切だ」と思ったことの記述も変化していったように感じた。そういった内容を書くことを意識すれば、「先生の話聞くようになった」などといった回答のように、授業の受け方にも変化が現れるようになる。また、IQのような問題を家庭学習ノートに転用することも学び方の変化として考えられる。

今後は、その学び方の変化を、どのように学びの定着につなげていくかを考えていかなければならない。

最後に、振り返りシートの可能性を伝えたい。老子の「知不知上，不知知病。」の言葉の通り、自分がよく理解していてもまだよく解っていないと考えるのが最善であり、よく解っていないことを解ったつもりになってしまうことが人間の欠点である。そもそも自分の欠点を欠点として自覚するから、それを改善することもできる。

筆者の経験上、生徒は授業で理解したことは「わかった」とする。少し理解が不足していても、「なんとなくわかった」として、それがいつの間にか「わかった」に変わっている。授業で理解できなかったことは「あとで復習しよう」とする。そしていずれのパターンも、その後の復習が行われることは少ない。

シートは、そういった生徒の心理的な欠点を改善する可能性があると感じている。振り返り活動の中で、自分は何ができていなかったのかを客観的に、そして具体的に考えることで、自分の不知を知る。そういったメタ認知的な視点は現代社会を生き抜いていくために必要な能力である。それを養うための一つの手立てとして、振り返り活動を学校教育の中で推進していく必要があると考える。

生徒は様々なことを学校で学ぶ。指導者はそこで、知識や技能だけでなく、「どのように学ぶか」を、より具体的に、より丁寧に教える存在であるべきだとの研究で感じた。これからもそういった姿勢を忘れることなく、挑戦し続けていきたい。

5 引用文献

- ・藤原大樹・大内広之・大矢周平（不詳）見通しと振り返りを重視した数学的活動の授業づくり
- ・堀哲夫（2013）教育評価の本質を問う一枚ポートフォリオ評価 OPPA 一枚の用紙の可能性
- ・小池克行・霞英樹・佐々木祐哉・石川和広・松沢要一・岩崎浩（2016）生徒による振り返りを視点とした授業改善への実践的アプローチ—生徒の学習感想を分析する枠組みの開発とその実践的検討—
- ・文部科学省（2017）中学校学習指導要領総則編
- ・重松敬一・吉岡睦美（2012）中学生のメタ認知のための振り返りシート活用の実践的研究